

令和4年度予算編成方針（案）

令和3年9月14日
狛江市長 松原俊雄

新型コロナウイルス感染症との闘いは、長期化してきており、一進一退を繰り返している。現在の新規感染者数増加の第5波は、減少してきてはいるものの、重症者数は高止まりし、厳しい状況が続いている。一方で、ワクチンの接種は急速に進み、狛江市民の接種希望者への2回目の接種完了も見えている。ウイルスの変異により、状況の変化も有り得るが、希望の光であることに変わりはない。

このような状況において、目下、新型コロナウイルス感染症対応が最優先だが、令和4年度は、ポストコロナへ向けた施策の展開をより具体的に進める必要がある。新型コロナウイルス感染症は、働き方や娯楽、生活様式、そして価値観に至るまで、広く、社会全体に影響を及ぼしているが、既に未来に向けた変化が大きく動き始めている。デジタル技術を活用した多様な働き方や教育、環境問題への意識の高まり等である。この変化をコロナ以前に戻すことなく、市役所、そして市民・事業者のデジタルトランスフォーメーション、ゼロカーボンシティに向けた取組を確実に推進しなければならない。

令和2年度の国のGDPは、過去最大の下げ幅となったが、国税収入としては、過去最大を記録している。しかしながら、内閣府の月例経済報告（令和3年8月26日）によると、景気は、持ち直しの動きが続いているものの、感染拡大による下振れリスクの高まりに十分注意する必要がある、としており、新型コロナウイルス感染症の影響は依然として厳しく、今後の見通しは難しい状況である。

これらを踏まえた上で、令和4年度予算は、総合基本計画の初年度実績を踏まえた行政評価を反映するとともに、私の任期が最終年度となり、市長選挙時に掲げた公約の実現のための編成とする。新型コロナウイルス感染症の長期化、変異株の出現により、より限られた予算とせざるを得ないことから、先に示した事業を着実に実施するため、進捗状況を整理し、成果と課題を明確にした上で、メリハリを持った要求としていただきたい。

以上を踏まえて、先に企画財政部長が通知した「令和4年度予算編成要領について」に留意の上、適切な予算編成に努めていただきたい。